

ヲ從來幸福ナル親昵今益固結セシメ我實ニ希望ス
ル處ナルヲ了解シ給ハント存スル故右イグナツフ
オンシエフニ此書ヲ附上ス向後此人ヲ懇遇アリテ
我カ名ヲ以テ啓告スル事件ハ全ク信用アラシムラ
願フ其他陛下ヲ神明ニ託シテ其擁護ヲ得給ハン事
ヲ祈望ス
一千八百七十四年八月廿六日我在位第二十六年ウ
イン京府ニ於テ自記ス フランスヨセフ 全權侍
臣アンドラスセ 大日本天皇陛下

十二月十五日

清國欽差大臣謁見國書ヲ捧呈ス

外務省伺

御國在留清國欽差大臣今般東京へ到着致候ニ付テハ
同國皇帝ノ親儀捧呈ノ為謁見被仰付度旨申立候右ハ
年内ニ謁見被仰付候方御都合可然ト存候條来ルニ
十七八日ノ内ニ御取極御沙汰有之様仕度候依之國
書寫相添此段相伺候也 十二月十四日

伺、趣来二十八日午前第十一時謁見被仰付候事

國書鈔稿

大清國

大皇帝問

太政頭典

大日本國
大皇帝好朕誼膺

大日本國

大皇帝好朕誼膺

天命寅紹丕基眷念友邦言歸于好茲特簡二品頂戴

升用翰林院侍講何如璋為欽差出使大臣三品

頂戴即遷知府張斯桂為副使往駐

貴國都城並令親齎

國書以表真心和好之據朕知何如璋等和平通達

辦理交涉事件必能悉臻妥協惟冀推誠相信得以

永臻友睦共享昇平朕有厚望焉

大清光緒三年七月初五日

宮內省上申

別紙外務省上申清國欽差大臣國書捧呈ノ為ノ謁見

ノ儀遂 奏問候處來ル二十八日午前十一時被仰付

候旨被仰出候條此段申進候也 十二月十五日

追テ別紙送進候也

本司議按

別紙外務省同清國欽差大臣國書捧呈ノ夕ノ謁見被

仰付度儀ノ宮内卿へ御照會奏問ノ遂ケ時日御浴定ノ

上左ノ通御指令可相成哉仰高裁候也 十二月十五日

廿州...
所...
類...
典...

十二月廿八日^{二十}

清國欽差大臣へ勅答

貴國大皇帝特ニ御書ヲ簡テ欽差出使大臣ト為シ親
書ヲ齎ラシ懇篤ノ盛意ヲ通セラル朕深ク之レヲ悦
フ朕固ヨリ卿カ和平通達ニシテ能ク其職任ニ堪ヘ兩
國ノ交誼ヲシテ益々親厚ナラシメン^一ヲ信ス且貴國
ノ康福安寧ヲ祈ル

大清國出使大臣何如璋等面奏

大日本國

大皇帝陛下使臣等奉我

大皇帝命出使敬進

國書伏惟

陛下八洲綏靖百度維新五土友邦均歸和好矧閩浙

太政官

御覽
御覽
御覽
御覽

尤固邦交 使臣等自不顧菲才 忝茲重任 惟當謹遵
修好條規 於兩國利益之事 與外務省悉心經理 此
後倍敦友睦 全樂昇平 使臣等不勝欣幸之至 謹

奏

十一月十三日 壬午

秘魯國代理公使エルモール内廷ニ於テ謁見

外務省同

御國在留秘魯國特命全權公使カールンバ氏歸國致レ
後任トシテ同公使館書記官エルモール氏却國在留
代理公使ニ命セラレ今度來國致シ謁見ノ儀願出朕
ニ付於内廷謁見被仰付可然因テ迄々ノ内日曜日ヲ
除キ御差支無之日時御治定被仰出度候此段相伺候
也 十一月五日 外務
伺ノ趣未 十三日午後第二時謁見被仰付候事 十一月
式部寮上申 外史歴查
別紙外務省伺秘魯國代理公使エルモール於内廷謁
見ノ儀逐奏聞候處未 十三日午後二時被仰付候旨被